

クリスチャン
生活と
古い生き方からの
解放



クリスチャン生活と古い生き方からの解放

はじめに

本テキストを手にとられた方へ

ハレルヤ！主よ、感謝します。

私たちはイエス・キリストを主と信じ、神の子どもとされました。「イエスは主」と告白する生き方とは、みことばを土台として生きる生き方です。私たちは自分たちの力や頑張りではなく、良い羊飼いであるイエス・キリストと一緒に歩むことができることを感謝します。そのために、イエス・キリストは、私たちにみことば、つまり、「神の王国の教え」を与えてくださいました。さらに、私たちがそれを行うことができるように、主は聖霊様を与えてくださっています。

主は、創世記のはじめに、人間が住めるように天地すべてをお造りになり、6日目に私たち人間を造ってくださいました。その目的は、「生めよ、増えよ、地を満たせ」とあるように、私たちが祝福を受け継ぐためです。同時に、「地を従えよ」とあるように、この地を管理する責任を私たち人間に与えられました。ここで、主は7日目に安息を定められたことを忘れてはなりません。主の祝福を正しく管理することは、主を第一とし、主との交わりの中から流れ出るものなのです。

私たちはイエス・キリストを主と信じて歩もうとするとき、様々な葛藤や戦いの中を通されます。それらは私たちをキリストの似姿へと造り変えるための主からのプレゼントでもあります。決して簡単な戦いではありません。このテキストは、私たちの実際生活にかかわる4つの事柄を取り上げて、皆さんの助けとなるよう作成されました。さあ、主によって与えられ、ゆだねられた素晴らしい祝福を、正しく管理することを学びましょう。

すべての学びの前に、聖霊様の助けを求めて学んでいきましょう。

「どうか、私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。(エペソ1:17)」

※テキスト内に聖書引用箇所を多く記載していますが、すべての箇所を開かなくてもテキストを読み進めることができます。各自のデボーションや小グループでの分かち合いなどで適宜ご活用ください。

本テキストの内容について、さらに詳しく知りたい方は、遠慮なく牧師や教職者にご相談ください。

クリスチャン生活と古い生き方からの解放

Contents ●目次

はじめに.....	1
第1章	
神の王国の教えを実践する	
1. イエス・キリストが主です	4
2. イエス・キリストの血潮によってきよめられる	5
3. みことばによって生きる.....	6
4. 御霊によって生きる	7
第2章	
内面の癒し	
1. 内なる傷の癒しの必要性	10
2. 内なる傷はどうして起こるのか	11
3. 内面の癒しは主イエスの働きです.....	11
4. 聖書の中の内面の癒し.....	11
5. 内面の癒しへのステップ	12
第3章	
「心」を管理する	
1. いのちの泉は「心」から湧く	14
2. 「心」を見張る	14
第4章	
「肉体と性」を管理する	
1. 聖書が教える性(結婚)の祝福.....	18
2. サタンの惑わしと主のさばき.....	19
3. 「肉体と性」を管理する	20
第5章	
「お金と経済」を管理する	
1. 神の恵みの良い管理者となる	22
2. 「金銭を愛する心」と「満ち足りる心」	23
3. 地を祝福し、天に宝を積む	24
終わりに.....	26

クリスチャン生活と古い生き方からの解放

第1章 神の王国の教えを実践する

1. イエス・キリストが主です

1.1 主イエス・キリストを愛する (マタイ 22:37-40、I ヨハネ 5:4-5)

私たちはイエス・キリストの愛を受け、キリストの愛の教えを実践するように召されています。イエス・キリストは、大切な戒めとして「主を愛すること」を教えてくださいました。私たちが古い生き方から解放され、勝利の信仰生活を歩み通すために必要なことは、主を愛すること、信仰の創始者であり、完成者であるイエス・キリストから目を離さないことです。世に勝つ者とはイエスを神の御子と信じる者です。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。

私たちが招かれているクリスチャン生活は、自分の力で切り拓く古い生き方ではありません。主にゆだね、主に信頼する歩みです。イエス・キリストに信頼し、主に聞き従うならば、主が私たちを日々新しく造り変えてくださいます。私たちが主に向くとき、主の御霊の自由を体験することができます。私たちはみな、御霊なる主の働きによって、鏡のように主の栄光を反映させながら、イエス・キリストの姿に変えられて行きます。驚くべきことに、主はみこころにより、私たちをイエス・キリストのかたちと同じ姿にすることをあらかじめ定めておられたのです。

1.2 主イエス・キリストをあかしする三つのもの (I ヨハネ 5:6-11、I ペテロ 2:9)

イエス・キリストが大切にされているもう一つの教えは、「隣人を自分自身のように愛すること」です。私たちは、主が示してくださった限りない愛に対する応答として、主が大切にされていることを大切に、隣人を愛し、主のあかしを伝えます。私たちは主の一方的な恵みによって選ばれ、王である祭司、聖なる国民、神の所有の民とされています。私たちの選びの目的は、私たちをやみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった主のすばらしいみわざを、私たちが宣べ伝えることです。

私たちが宣べ伝える神のあかしは、イエス・キリストについてのあかしです。そのあかしとは、主が私たちに永遠のいのちを与えられたこと、そして、このいのちがイエス・キリストのうちにあるということです。イエス・キリストを信じる者は、このあかしを自分の心の中に持っています。聖書はあかしするものが三つあると教えています。それは、御霊と水と血です。この三つが一つとなるのです。イエス・キリストはみことば(水)が人となって来られたお方です。血はイエス・キリストの十字架の血潮を表し、イエス・キリストの贖いが私たちの全領域に臨むようになります。私たちは御霊に満たされ続ける必要があります、御霊の洗いによって更新され続けていきます。

イエス・キリストの十字架の血潮・主のみことば・御霊が一つとなるとき、私たちは主の聖さにあずかり、洗われ、イエス・キリストの香りと御霊の実が現され、イエス・キリストの栄光が私たちを通して現されると信じます。私たちは神の作品であって、良い行い

クリスチャン生活と古い生き方からの解放

をするためにキリスト・イエスにあつて造られました。偉大な主は、その良い行いをも私たちにあらかじめ備えてくださっていることを感謝します。

夫婦、家庭、兄弟姉妹、信仰の友と一緒に祈り、イエス・キリストの血潮・みことば・御霊によって祈りの城壁を築き、古い生き方から解放された歩みをしていきましょう。

2. イエス・キリストの血潮によってきよめられる

イエス・キリストはとこしえの御霊によってご自身の血をささげてくださいました。新しい契約はキリストの十字架の血によって結ばれ、私たちはキリストの血潮によって永遠の贖いを受けました。キリストの血潮は私たちのすべての罪をきよめてくださいます。

2.1 イエス・キリストの血潮は私たちをきよめてくださる (ヘブル 9:14-15, 22)

私たちはみな、かつては自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、情欲によって滅びて行く、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。「人の心は何よりも陰険で、それは直らない。(エレミヤ 17:9)」とあり、私たちの心を自分自身できよめることはできません。聖書は血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはなく、すべてのものは血によってきよめられると教えています。イエス・キリストは私たちの罪を赦すために、世全体のためのなだめの供え物となり、傷のないご自身をとこしえの御霊によって神にささげて、血を注ぎ出してくださいました。その血潮には私たちの良心をきよめて死んだ行いから離れさせ、生ける神に仕える者とする力があります。良心とは何が良いことで何が悪いことかを判断する心です。イエス・キリストの血潮はすべてを解決してくださいました。私たちは日々、イエス・キリストの血潮を求め、その血潮によって心がきよめられることを宣言していきましょう。

2.2 罪を犯した後の悔い改め (詩篇 51:17、I ヨハネ 1:7-9、黙示録 2:4-5)

アダムとエバは、罪を犯した後、主の御顔を避けて隠れました。また、十二弟子の一人であるユダも、イエス・キリストを裏切った後、主の前に戻ってくることはありませんでした。私たちは不完全で弱い存在であり、間違いを犯します。私たちが罪を犯したときには、主の前に悔い改める必要があります。主は、情け深く、あわれみ深い方であり、砕かれた霊、悔いた心のいけにえをさげすまれることはありません。御霊の助けによって悔い改めるとき、イエス・キリストの血潮によって罪がきよめられ、私たちのうちにきよい心が与えられ、ゆるがない霊が新たにされることを感謝します。

主は私たちを大きな愛のゆえにキリストとともによみがえらせてくださいました。肉の欲求や人の意欲によってでもなく、主によって生まれた者とされました。イエス・キリストの十字架の血潮には、私たちを聖く、傷なく、非難されるところのない者として御前に立たせることのできる力があります。もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、主は真

クリスチャン生活と古い生き方からの解放

実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。私たちは初めの愛から離れることがないようにしましょう。

3. みことばによって生きる (ヘブル 8:10-12)

イエス・キリストによって与えられた新しい契約は、「わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心に書きつける。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。」という契約です。主が御霊によって私たちの心に主の教え(みことば)を書き記して下さり、みことばを行わせてくださるのです。

3.1 みことばによって洗われる (エペソ 5:26)

御霊の働きと朽ちることのないみことばにより、私たちは新しくされました。主は、日々みことばにより、水の洗いをもって教会をきよめてくださいます。みことばによって日々洗われることは、主に仕えるアロンとその子らが、幕屋の庭に置かれた青銅の洗盤から汲み取った水で両手両足を洗ってから、祭司の務めをしていたこととつながっています。青銅の洗盤は女たちの鏡で作られました。私たちは、鏡を覗いて自分自身を見つめるように、青銅の洗盤の象徴であるみことばによって自分を見つめ、日々きよめられる必要があります。神のことばは生きていて、力があり、心のいろいろな考えやほかりごとを判別することができます。私たちはそこで自分自身の姿を見、日々みことばの水で手足を洗い、きよめを受けることができます。

3.2 みことばのパンを食べる (1ペテロ 2:1-2、使徒 20:32、ローマ 10:17)

イエス・キリストは、人は食物だけで生きるのではなく、神の口から出るいのちのパン(一つひとつのみことば)によって生きると宣言してくださいました。私たちは生まれたばかりの乳飲み子のように混じりけのない純粋なみことばの乳を慕い求め、みことばによって養われ、成長していくのです。みことばは、私たちを育成し、御国を継がせることができます。みことばを心に蓄えるために、私たちが口で告白することは大切です。「死と生は舌に支配される。(箴言 18:21)」とあるように、私たちの告白は私たちのアイデンティティを形成していきます。私たちの心にあるものが告白となっていくため、最も良きものであるみことばを心に蓄え、そのみことばを朗読し、告白することをお勧めします。信仰はイエス・キリストのみことばを聞くことから始まるため、私たちがみことばを告白するときに、みことばが心に書き記され、みことばと私たちの信仰の歩みが結び付いていきます。

クリスチャン生活と古い生き方からの解放

3.3 みことばによって悪魔に立ち向かう

(エペソ 6:11-17、ヤコブ 4:7-8、マタイ 16:18-19)

私たちの戦いは、主権、力、この暗闇の世界の支配者たち、また、天にいる悪霊に対するものです。敵である悪魔は、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。私たちは自分の強さや忍耐力などによって悪魔と戦うことはできません。主の戦いには主の方法があります。悪魔の策略に対して立ち向かうために、神のすべての武具を身に着ける必要があります。信仰の大盾は悪魔が放つ火矢をみな消すことができ、私たちの武器であるみことばによって、悪魔を打ち破ることができる。聖書は語っています。私たちは心に植えつけられたみことばを受け入れ、みことばを実行する者とならせていただきます。主はみことばを守る力を聖霊によって与えてくださいます。私たちが主に近づくとき、主は私たちに近づいてくださり、私たちが主に従い、みことばによって悪魔に立ち向かうとき、悪魔は逃げていきます。

主を信じる人々には、イエス・キリストの名によって悪霊を追い出す権威が与えられることが約束されています。さらに、私たち教会には天の御国の鍵が与えられています。私たちに天国の門を開き、神の国の祝福をこの地に押し流し、ハデスの門を閉じる権威が与えられています。私たちはみことばを受け取り、宣言し、この地に神の国の勝利を解き放っていくことができます。

4. 御霊によって生きる

新しい契約は、キリストによって結ばれ、御霊によって保証される契約です。主は私たちに新しい心を与え、私たちのうちに新しい霊を授けてくださり、御霊に仕える者としてくださいました。

4.1 御霊に導かれる (テトス 3:5-7、ヨハネ 3:6、Ⅱペテロ 1:20-21)

イスラエルの民は主の教えを愛し、自分たちの力でみことばを守り通すことを求めましたが、みことばに完全に従って生きることはできませんでした。主はイスラエルの民、そして異邦人にイエス・キリストを通して新しい契約を与えてくださり、神の国を受け継ぐ保証としての御霊を与えてくださいました。御霊によって生まれた者は霊であり、御霊によって歩む道に導かれています。

主のみことばは人間の意志ではなく、聖霊によって動かされた人々によって語られ、神の靈感によって記されました。私たちの知恵や知識では主のみことばを本当の意味で知ることはできません。ですから、私たちは主のみことばを教えるために、その作者である御霊の助けをいただく必要があります。そして、御霊の助けによって、私たちはみことばに従い、みことばを生きる力が与えられるのです。

クリスチャン生活と古い生き方からの解放

4.2 御霊によって絶えず祈る (Iテサロニケ 5:16-19、ガラテヤ 5:22-23)

主は、私たちが御霊を消さずに、いつも喜び、絶えず祈り、すべてのことに感謝することを望んでおられます。何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもって祈りと願いをささげるとき、人のすべての考えにまさる主の平安が、私たちの心と思いを守ってください。私たちは怒ったり、言い争ったりせず、どこでもきよい手を上げて祈ることができます。主の恵みから落ちる者がないように、苦い根が芽を出して悩ましたり、これによって多くの人が汚されたりすることのないように、御霊によってともに祈り合っていきましょう。私たちが主の前で正直に心を注ぎ出すときに、主の御霊が私たちの内側を変えてくださり、私たちの心に御霊の実を結ばせてくださいます。私たちは祈りのために心を整え、身を慎み、目を覚まして、主のみこころを祈っていきましょう。

4.3 御霊によってみことばを行う (IIテモテ 1:7-8、IIコリント 3:16-18)

私たち自身の中にはみことばを生きる力はなく、御霊の助けが必要です。肩肘を張って宗教的な行いや生き方を求める必要はありません。主が私たちに与えてくださったものは、おくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です。日々みことばと御霊によって心をきよめていただきましょう。主のみこころは、私たちが聖くなることです。私たちが不品行を避け、各自わきまえて、自分のからだを、聖く、また尊く保つことです。主は、汚れを行うためではなく、聖潔を得るために、私たちを召してくださいました。心のきよさは生き方であり、すべての人間関係に表れます。私たちが主に向くとき、御霊なる主の働きによって、私たちは主と同じかたちに変えられていきます。日毎に主との正しい関係を求めていきましょう。また、いつも目の前に主を置き、御霊の助けによりみことばに聞き従い、主とともに歩んでいきましょう。

第2章 内面の癒し

1. 内なる傷の癒しの必要性

1.1 多くの人が心の傷を受けている (詩篇 139:23-24)

聖書が語っている終わりの時代には、人々の愛が冷えていきます。その中で多くの人がストレスを感じ、心の傷を抱えています。生まれ育った環境や、生まれながらの性格的傾向も人それぞれであり、その人にとって何が心の傷となっているのかには、多様な理由があります。心に傷の無い人はいません。もし、人が大きな事故に遭い、大きな外傷を負ったとすると、その傷が癒されるまでは安静が必要であり、通常の生活をするにはできません。同じように、大きな心の傷を受けている場合も、その傷を抱えたままでは神様が与えたいと願っている祝福をそのまま受け取ることができなくなってしまいます。ダビデは神様の前で、「心の傷があるならば癒してください」と願っています。

1.2 心の傷が他の人を傷つけ、主の教会を痛めてしまう (ヤコブ 3:13-18)

私たちは以前、私自身を心の王座に置いていました。そのときは、人生の目的の達成のためなら、少々他の人との軋轢があっても構わないという生き方をしてきました。しかし、神の国の主権者イエス・キリストを信じて、「イエスは主」と告白する恵みに与かるとき、それは同時に、神の教会、神の家族に加えられたことを意味します。神の国の大切な教えは「隣人を愛する」ことであり、他の人の祝福のために生きる人生へと造り変えられています。ですから、一人ひとりが大切であり、その原動力である心が大切です。もし、心の傷が癒されていないと、神の家族全体に影響を及ぼしてしまいます。そのため、私たちは心に傷を抱えたまま、今までの自分の経験、努力、知識に頼る生き方をすることによって、主の教会を傷つけるようなことをしてはなりません。逆に、主が与えてくださる上からの知恵によって、平和をつくる者となり、健全なキリストのからだである主の教会をともに建て上げるのです。

1.3 主は癒し主、その癒しはすべての領域におよぶ！ (Ⅱコリント 5:17-19)

主は癒し主です。そして、その癒しは私たちの心と思い、生活の隅々まで、人生の過去・現在・将来にまで及びます。主は、私たちの霊・たましい・からだを完全に守られるようにと、既に十字架のみわざを成し遂げてくださったのです。主は、十字架の血潮によって、私たちをむなしい生き方から完全に解放してくださいました。「救い」を意味するギリシャ語の「ソーゾー」という言葉は、霊的救いだけでなく、肉体と内面の癒しや精神的解放を含むすべての領域を、神のかたちに創られた本来の人の姿へ回復していくことを意味しています。

クリスチャン生活と古い生き方からの解放

2. 内なる傷はどうして起こるのか

まず、私たちが「これは不条理な出来事のゆえに私の内面にある心の傷だ」と思っていたことの中に、「神のみことばに従っていない罪」があることを認めることです。両親との関係、裁く思い、偽りや誓い、傷ついた霊(トラウマ)、家系や社会組織から受けた傷、悪霊からの攻撃など、内なる傷が起こる要因は様々ですが、私たちは、自分の努力や頑張りでは神のみことばに従えない罪人であることを認め、既に解決して下さった勝利の主だけに頼っていきましょう。私たちが自分の無力さを主の前に認めるとき、内なる傷の癒しは、現実生活の中にも始まっていきます。

3. 内面の癒しは主イエスの働きです

3.1 イエス・キリストの地上での働きです (ルカ 4:16-21)

イエス・キリストは「貧しい者に良い知らせを伝え、心の傷ついた者を癒すために、わたしを遣わされた」と宣言されました。内面の癒しは主イエス・キリストの働きです。イエス・キリストを飢え渴いて心の王座にお迎えするとき、心が癒され、心に平安が与えられます。イエス・キリストは人々の外面的なことだけでなく、内面にも注目されました。人々に霊的救いと肉体的癒しを与えるとともに、内面も癒され、人々の心に自由と解放を与えてくださいました。

3.2 過去・現在・未来にキリストの十字架と葬り、復活を適用します

私たちの信仰の土台はイエス・キリストの十字架の贖いにあります。私たちの努力や頑張りによることではなく、ただ一方的な無条件の恵みによることです(ガラテヤ 2:16)。内面の癒しも同じです。主が既に完成して下さった十字架の死、葬りと復活によって与えられる勝利と新しいいのちを、私たちの傷ついた心の領域に受け取ります。

3.3 聖霊様の働きです (ヨハネ 14:16-17)

人間の心はあまりにも深く、自分でも自分自身のことが分からないことが多くあります。誰が自分の本心とその潜在意識に至るまで理解しているのでしょうか。主は、人が神のみことばを生きることができるように、助け手であり慰め主である聖霊様を与えてくださいました。素晴らしい助け主である聖霊様だけが、私たちの内面を本当の意味で取り扱うことができます。

4. 聖書の中の内面の癒し (詩篇 119:71、詩篇 139 篇、I 列王記 19 章)

聖書の登場人物の多くは、大きな試練と問題の中から神様を求めました。

ヨセフは数々の不条理な境遇を通されますが、ヨセフは自分を傷つけた兄弟たちに対して、「あなたがたは、私に悪を計りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとなさいました。(創世記 50:20)」と宣言しています。どのような不条理なことがあっても、

クリスチャン生活と古い生き方からの解放

問題と試練の中にもにいてくださる主にあって人生の視点が変えられ、主が主権を持って用意しておられる良いご計画に対して希望を持つことができるようになります。

ダビデも生涯を通して多くの試練と問題の中を通されました。自らが仕えるサウル王から妬まれ、しつこく命を付け狙われました。自分の子どもからも王座を狙われ、命を狙われました。ダビデ自身もウリヤの妻バテ・シェバと不倫の罪を犯し、ウリヤを殺害してしまいました。ダビデは生涯を通して主の前を歩み、主を慕い求め続け、自分の正直な心を主の前に打ち明けています(詩篇 139 篇)。

預言者エリヤは、神が最も嫌われる偶像礼拝をイスラエルの中から取り除き、イスラエル 12 部族が主なる神に立ち返ることを願っていました。彼はバアルの預言者たちと勇敢に戦い、天からの火が祭壇に下り、主こそ神であることが明らかにされました。しかし、イスラエルの人々は主に立ち返ることなく、アハブ王は悔い改めず、イゼベル王妃はエリヤの命を狙ったのです。エリヤは自分が願った通りにならなかったことに失望し、疲れ切って逃げ出しました。そのようなエリヤを、主は癒して建て直し、再び主の働きへと導いてくださいました(I 列王記 19 章)。

5. 内面の癒しへのステップ

私たちの心の傷は決して他の人のものと同じではありません。主は一人ひとり特別な方法で癒してくださるのです。私たちが願う以上に、主ご自身が私たちの内面の癒しを願っておられます。「主には癒すことができる」という信仰を持って主の前に出て、すべてをゆだねて信頼し続けましょう。

5.1 主に癒していただきたいと願う (詩篇 139:7)

「なぜ、私の人生は自分の思うようにならないのだろう」と思ったことはありませんか。これは、「私が私の人生と周囲のすべてをコントロールしたい」という願いから出たことであり、「自分が神のようになろう」と思うことと同じなのです。私の主はイエス・キリストです。イエス・キリストが人生のすべての領域を導いてくださいます。

多くの場合、心の傷を受けた人は、「癒されたい」と思いながらも、「そっとしておいて欲しい」「触れられたくない」と主の癒しから逃げようとする傾向があります。主は「良くなりたくないか」と語りかけてくださるお方です。無理矢理に人の心に介入しようとはなさいません。自分で心を開いて主をお迎えするのです。私たちは「現状に留まっている方が楽だ」と無意識的に願ってしまうことがあります。しかし、主の前に自分の心を吟味し、「どんなことがあっても癒されたい」という願いを主の前に明確にしましょう。

5.2 主の前に素直に出る (詩篇 139:1)

どんな人も「他の人からよく見られたい」と願います。しかし、主からよく見られたいと取り繕うのは無意味です。どんなに飾ったり、隠したりしても主はすべてをご存じです。

クリスチャン生活と古い生き方からの解放

エル・ロイ(ご覧になる神)は、私たちが生まれる前から私たちをご覧になっておられます。誰よりも私たちをご存じのお方です。素直に、ありのままの思いを主の前に注ぎ出しましょう。「主よ。あなたは私を探り、私を知っておられます。(詩篇 139:1)」

5.3 主の御手にすべてをゆだねる (詩篇 55:22)

心の傷は人それぞれによって異なります。心のどこに問題があるのか、自分でも分からないことが多いのです。自分の考えを捨て、自分の力を抜いて、全能の良いお方の御手の中にゆだねましょう。意識的に問題を主にゆだねることが必要です。そうすれば、主が引き受けてくださり、最善の道へと導いてくださるのです。

5.4 主の前に祈るときに何が起ってもゆだね続ける

内面の癒しの祈りをする中では、脱力感、理性的でない言動、霊的問題の表面化、何も感じないなどの症状が起こることがあります。しかし、何が起っても主の御手の中にあることを信じて、自分の意志で止めないようにしましょう。自分の努力で内面が癒されることは決してありません。内面の癒しの中で起こってくることを止めないで、素直に主に明け渡し、主のお取り扱いを受けましょう。

5.5 継続して主に内面の癒しを求め続ける (ガラテヤ 2:20)

内面の癒しは、主がご計画された本来の姿へと私たち自身が回復されていくために大きな助けとなります。それは聖霊様の働きであり、一生続くものです。私たちは過去の傷の癒しを体験するとともに、日々癒される必要があります。その中で自分の無力さを悟り、その弱さの中に働かれる主の救い・癒し・解放、主の一方的な恵みを体験するのです。

「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。(ガラテヤ 2:20)」

内面の癒しの土台は、イエス・キリストの十字架の死、葬りと復活のみわざです。「イエスは主」と告白する者にとって、回復は福音に基づくものであり、神が造られた本来の姿への回復を意味します。内面の癒しは、日々十字架のイエス・キリストとともに自分の肉の努力に対して死に、聖霊様が与えてくださる神の恵みの賜物を受け取っていく過程なのです。

内面の癒しの目的は、私たちがより良い人生を送るためではなく、私たちを通して主の栄光が現され、周囲の人たちが祝福され、家族関係をはじめ、あらゆる関係性が回復されるためのものです。キリストのからだである主の教会が建て上げられるために、十字架の主イエス・キリストだけをともに見上げ続けていきましょう。

第3章 「心」を管理する

1. いのちの泉は「心」から湧く (箴言 4:23、ヨハネ 7:37-38、ルカ 6:45)

箴言には「力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく。」と主の知恵が語られています。日本語の「心」は感情的な思いや情緒的なニュアンスが強いに対し、ヘブル語の「心」はむしろ頭で考える知性的(理性的・論理的)なニュアンスが強いことが特徴です。また、「心」の場所については、主が与えてくださる御霊が流れ出る場所として「心(腹)の奥底」と語られています。

私たちの心にある物や何によって心を満たしているかが、私たちの行動に現れると聖書は教えています。私たちの心と思いによって、そこから人々を祝福することのできるほどの泉が湧くこともありますし、そこから罪責感や怒り、否定的な流れを押し出すこともできてしまいます。私たちの心と思いから生じた信仰の行動が、私たちの信仰生活となるのです。

2. 「心」を見張る

私たちに力の限り見張るよう教えている「心」にはどのようなものがあるのか、聖書から見ていきましょう。

2.1 誠実な心 (エレミヤ 31:3、ホセア 10:12、詩篇 7:9)

まず、「誠実な心」です。私たちは誠実な心を目指すことが重要です。ジャック・ヘイフォード博士は「誠実な心とは、祈りを通して心に語られたことや、語られたことばを実行したい、と願う心のこと」と語っています。「誠実な心」とは、「舌の正直さ」「思いの真実さ」「自分自身に対する正直さ」「信頼を裏切らない心」をまとめて一つにした言葉です。主ご自身は誠実なお方であり、誠実を愛することを求めておられます。主は私たちの心と思いを調べておられます。聖書の登場人物の歩みから、「誠実な心」がどのようなものであるかを見ていきましょう。

【Case.1 ダビデ 主への礼拝に対する誠実さ (詩篇 16:8-11、19:12-13、25:21)】

「主に信頼して善を行え。地に住み、誠実を養え。主をおのれの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。(詩篇 37:3-5)」

この詩篇を書いたダビデは羊飼いとて荒野において礼拝者となり、主に見出され、イスラエルの王として油注ぎを受けました。「私はいつも、自分の前に主を置いた」とダビデは語っています。ダビデはまた、自身の口の告白と心の思いが主の前に受け入れられること、自身の誠実さが保たれることを切に願っていました。ダビデは主が何よりも誠実さを喜ばれることを知っていました。

(1) ダビデはいつも主を尋ね求めた

ダビデはいつも主に尋ね、主に伺い、主の知恵を得ました。ダビデは敵との戦いの都度、まず主に伺いました。主の戦い方はその時々によって指示が異なります。ダビデは過去の経験に頼らずに主の方法を尋ね求めました。私たちの経験や考えでは、主の真意を知ることはできません。キリストの弟子である私たちも、ダビデのように「これは一体どういうことですか」と主に尋ね求める必要があります。そして、主はそのように主と向き合い、尋ね求める者をお見捨てにならず、ご自分を現してくださるのです。

(2) ダビデはいつも主の主権を認めた

ダビデは主の主権にどこまでも忠実でした。ダビデは姦淫の罪、家族の問題、人口調査での失敗など多くの間違いを犯しました。彼は自分で自分を裁くことをせず、主に裁きをゆだねました。彼が彼の主君であるサウル王から言われもなく命を狙われたときにも、主の主権によって王となったサウルに手をかけることはありませんでした。ダビデは主の主権を認め、目に見える権威に従うことを選び取ったのです。聖書は高い地位にある人々のためにとりなし祈ることを勧めています。また、私たちの敵が倒れるときに喜ばず、敵がつまずくときに楽しまないように教えています。人々を裁くことは私たちの務めではありません。ただ一人、善悪を決める権威を持つ義なる主がなされることです。私たちは主から信頼を受けた者として、主を悲しませないように歩んでいきましょう。

【Case. 2 サウル 偶像礼拝は不誠実な歩みに至る（失敗例）】

I サムエル 13 章のイスラエルとペリシテ人との戦いにおいても、15 章のアマレク人との戦いにおいても、不安と恐れゆえに人間的手段で民の心をつなぎとめようとしたサウルは、主に尋ね求めることをせず、主のことばに従いませんでした。サウルは自分を導いて王にしてくださった主に信頼することよりも、自分の考えで大切な判断をしてしまい、その結果、主から退けられたのです。

偶像礼拝とは、主以外の他の神や何かを信仰することだけではありません。自分を神として生きる、または、自分を正しい(義)とする歩みは、人間中心の罪の歩みであり、偶像礼拝です。サウル王は自分が従わなかったことを正当化しました。自分を正しさの基準としたのです。彼は主の前に誠実さを保つことができず、ついに、主への誠実さを取り戻すことはありませんでした。

私たちには、自分たちの経験や世の中の雰囲気などにより聖書に記されていることを覆い隠し、自分が神であるかのように自分の正しさを振りかざしてしまう弱さがあります。自分を正しさの基準とするのではなく、主の正しさ、主だけが義であることを認め、主の前にへりくだることが必要です。

クリスチャン生活と古い生き方からの解放

2.2 赦す心

次に、「赦す心」です。赦しの基本的な概念は、解放すること、手放すことです。十字架の血潮によって罪の赦しを受けた瞬間から、私たちは罪と死の力から解放されたのです。

(1) 赦さない心・怒りの感情から解放される (箴言 14:29-30、Iヨハネ 2:9-11)

私たちが他の人に対して完全な解放と赦しの中に生きていないなら、たましいには責めの痛みがあることでしょう。赦さない霊や怒りの感情は、喜びや霊的な力、そして肉体の健康をも奪い去ってしまいます。私たちが赦さない心をそのままにしておくことは危険なことです。神の兄弟を赦さずに憎む者は、光の中ではなく、やみの中におり、目が見えなくなり、自分がどこに行くのか分からなくなってしまいます。私たちの心の状態が霊・たましい・からだの状態を決定するのです。

(2) 主が私たちを赦してくださったように、私たちも人を赦します

(詩篇 65:3-4、ルカ 6:37、エペソ 4:32)

イエス・キリストは赦しについて弟子から質問されたときに、七度を七十倍するまで赦すように教えました。「さばいてはいけません。そうすれば、自分もさばかれません。人を罪に定めてはいけません。そうすれば、自分も罪に定められません。赦しなさい。そうすれば、自分も赦されます。」とも語られました。しかし、私たち自身からはこのような赦しは生まれてきません。だからこそ、この赦さない心と怒りの感情の中で、私たちは葛藤を覚え、苦悩します。そのようなときに、サタンは「傷ついたのはあなただから、あなたはそのままが良い」と、自分の正義を主張するよう私たちを誘惑します。しかし、自分を正しいとすることは自分を神とすることです。サタンはいつでも、私たちの関心や物事の焦点を、「神」ではなく、「人」に当てることで、私たちを惑わそうとすることを知っておく必要があります。

そもそも、私たちが赦す側にいるというのは錯覚です。私たちは赦される必要があり、赦された側にいることを思い出す必要があります。イエス・キリストは、私たちの罪の身代わりとなり、罪そのものとして十字架にはりつけにされたのです。主は私たちの罪をぬぐい去り、思い出さないと宣言してくださいました。私たちが返すことのできない負債を主は免除してくださいました。もし、私たちが主に赦されたことを忘れ、赦せない人を牢に閉じ込めてしまふなら、私たちを赦してくださった主も、私たちを牢に引き渡されます。私たちは自分が圧倒されていた咎やそむきの罪を赦され、主の家に住む幸いな者とされていることを感謝します。主が私たちを赦してくださったように、他の人を赦すことができるように求めましよう。

どうしても赦せないときは、牧師や教職者、またはリーダーに相談し、ともに祈ることをお勧めします。ふたりでも三人でも、イエスの名において集まる所にイエス・キリストがいてくださり、ふたりがどんな事でも、地上で心一つにして祈るなら、父なる神様が祈りを

クリスチャン生活と古い生き方からの解放

かなえてくださいます。このように約束してくださった**主**に信頼して、神の国の赦しが解放たれていくために、ともに祈っていきましょう。

2.3 謙遜な心 (マタイ 5:5)

最後に、「謙遜な心」です。本当の謙遜は、**主**の前に出る謙遜であり、**主**が言われた通りの自分を認めることです。また、誰かに非難されたときに即座に反応しない態度であり、仕返ししない心、我慢できる心です。そのような柔和な心を持つ者は、約束の地を受け継ぐことができます。

(1) **主**は高ぶる者に敵対される (コロサイ 2:18、イザヤ 40:3-4、I ペテロ 5:5-7)

「高ぶりは破滅に先立ち、心の高慢は倒れに先立つ。(箴言 16:18)」この箇所は、失敗や挫折の前には高ぶりが存在することを示唆しています。過度なプライドを持つことだけでなく、ことさらな自己卑下や偽りの謙遜についても聖書は戒めています。山や丘のような高慢は低くされる必要があると同様に、谷も埋め立てられる必要があるのです。私たちには、自分を認めて欲しいと人からの評価を求めたり、高すぎる自意識のゆえに、自分の評価を他人に任せることができない領域があるかもしれません。

高ぶりの本質は、**主**の主権を認めず、自分の正しさや自分の義を立てようとする心です。「みな互いに謙遜を身に着けなさい」と聖書は教えています。**主**は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられる方です。

「あなたのしもべを、傲慢の罪から守ってください。それらが私を支配しませんように。そうすれば、私は全き者となり、大きな罪を、免れて、きよくなるでしょう。(詩篇 19:13)」

(2) イエス・キリストの謙遜から学ぶ

(イザヤ 57:15、ピリピ 2:6-9、詩篇 138:6-8)

イエス・キリストは神の御子である方なのに、本当のへりくだりを実践してくださいました。イエス・キリストは御父に対してだけでなく、私たち人間にも仕えてくださいました。神は心砕かれてへりくだった人とともに住んでくださいます。イエス・キリストは、「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。(マタイ 11:28-29)」と語り、私たちをへりくだりの祝福に招いてくださいました。イエス・キリストは神であられたのに人となられ、実に十字架の死にまでも従われ、へりくだってくださいました。**主**は高い天におられますが、低くへりくだる者を顧みてください。

「**主**はあなたに告げられた。人よ。何が良いことなのか。**主**は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公義を行い、誠実を愛し、へりくだってあなたの神とともに歩むことではないか。(ミカ 6:8)」

第4章 「肉体と性」を管理する

私たちのからだは聖霊が住まわれる宮であり、もはや自分自身のものではありません（Iコリント 6:19）。それゆえ、私たちは、私たちのからだを主に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげます。それこそ、私たちの霊的な礼拝であると聖書は語っています（ローマ 12:1）。聖書は「肉体と性」についてどのように語っているのでしょうか。

1. 聖書が教える性（結婚）の祝福

1.1 お互いが「ふさわしい助け手」（Iコリント 11:12）

神によって造られた人アダムには、多くの被造物を支配する権威が与えられていました。ところが、彼には自分に「ふさわしい助け手（パートナー）」を見出すことができませんでした。そこで、主は彼のあばら骨の一部を抜き取って女を造られました。彼は「ふさわしい助け手」である妻を見出し、大いに喜び、二人は結ばれて一体となりました。一人の男と一人の女で一体になるように造られたのです。ですから、この夫婦は神の作品としての夫婦と言えるのです。すべては神から発し、女が男をもとにして造られたように、男も女によって生まれます。男性と女性はそれぞれ主が目的を持って創造されました。どちらが優れているかではなく、それぞれが主に与えられた賜物を用い、お互いを尊重して役割を果たすときに、一人では届くことができなかった領域にまで神の国の働きがなされていくと信じます。

1.2 二つの者が一つとなる（創世記 2:24、エペソ 5:26-32、マルコ 10:2-9）

聖書の中で、二つの異なるものがキリストにあって一つとなることは「奥義」と言われています。聖書は神による結婚制度を教えています。主は結婚制度を通して、正しく「肉体と性」を管理するように求めておられるのです。「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。（創世記 1:28）」と子孫が増え、繁栄していくように、主は男と女を創造し、祝福されました。結婚による夫と妻の関係は、主と主の民の間の契約による関係を表しており、結婚はキリストとキリストの花嫁である教会の関係と同じです。イスラエルと異邦人、イエス・キリストと教会、そして男と女が一つになることが主の特別なご計画なのです。この目的を正しく理解することが、祝福された結婚へと導かれることになるのです。

結婚によって、男は女と結ばれ、二人は一体となるのであり、結婚前に性的関係を持つことは主の意図されたことではありません。現代の世の中では、結婚前に性的関係を持つことを特別問題視することはないため、聖書の教えを知らずに結婚前に性的関係を持ってしまふ方もいます。その方々を裁くことが目的ではありませんが、男女が交際する際には、お互いが正しく「肉体と性」を管理し、相手を大切に思い、尊重しましょう。結婚前の性的関係を忍耐することは神の定めであり、二人の信頼関係が深まることにつながるのです。

クリスチャン生活と古い生き方からの解放

パリサイ人が妻を離別することについてイエス・キリストに質問した際、「神が結び合わせたものを引き離してはなりません。」とイエス・キリストは答えられました。「神が結び合わせたもの」とは、「神がくびきをともにさせた」という意味です。結婚はそれほど強い絆なのです。離婚が子どもたちに及ぼす精神的影響は甚大です。イエス・キリストが語られた結婚の神聖さに目を向けていく必要があります。

1.3 一夫多妻制の弊害と混乱 (エペソ 5:5、Iヨハネ 5:21)

私たちが住む日本では、一夫多妻制度は認められていませんが、著名人による夫婦以外の相手との不倫報道が頻繁になされています。聖書には、イスラエルの王ソロモンが、一人の妻以外の女性と性的関係を持ったことにより生じた弊害やその後の混乱が記されています。ソロモンは彼の治世の40年間を、主から与えられた知恵を用いて治め、イスラエルは繁栄し、栄華を極めた黄金時代を迎えました。しかし、ソロモンの治世以降、イスラエル王国は北イスラエルと南ユダに分裂してしまいます。かつてイスラエルがカナンの地に入ったときに、主が「決して交わってはならない」と警告された異国の女性から、ソロモンは離れることができませんでした。ソロモンは多くの異国の妻を持つことによって相手国と同盟を結び、外交上の平和を得ましたが、それによってイスラエルに偶像礼拝が持ち込まれ、神の聖さが失われてしまったのです。

ソロモンの失敗の深刻な問題点は、彼が蒔いた種を、次世代の者が刈り取ることになり、痛みを通ることになってしまった点です。私たちは、性的な墮落や混乱が次世代に痛みや混乱を与えてしまうことを覚え、責任ある生き方をし、自分の「肉体と性」を適切に管理する必要があります。不品行な者、汚れた者、むさぼる者は偶像礼拝者であり、神の国を相続することができません。聖書は偶像礼拝を避け、警戒するように忠告しています。

2. サタンの惑わしと主のさばき

サタンは「肉体と性」が正しく管理され、強固な夫婦関係や祝福された家族によって神の国が拡大することを防ごうとします。サタンは主の主権を疑わせ、自分の感情、考え、経験で歩ませようとしています。しかし、主の主権を排除する生き方に対して、主はさばきを下されます。

2.1 サタンの惑わし (出エジプト 20:14, 17、ローマ 1:26-28)

主が正しさの基準です。サタンは私たちの関心を「主を知ること」から遠ざけようとしています。不倫が一般的になっている時代ですが、不倫は主の悲しまれることです。また、同性愛が認められるような時代ですが、それは主が意図したことではありません。聖書は「イエスは主」と主の主権を宣言しますが、サタンは巧みに世の中や教会の中にまで「私たちの権利」を主張するようにささやき、訴えているのです。私たちの心が主の前で

クリスチャン生活と古い生き方からの解放

高慢にならないように、また、サタンが私たちを惑わそうとしていることを覚え、目を覚ましておく必要があります。

【Case.3 エデンの園 サタンの惑わし】

サタンは狡猾な存在です。アダムとエバは、「それを食べると、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになる」というサタンの惑わしにより、エデンの園の中央にある木の実を食べ、エデンの園を追い出されてしまいました。このアダムの罪により、性的事柄についても、主が意図したことからかけ離れた状態になってしまいました。

「善悪を知るようになる」とは、自分が善悪の基準となるということです。自分が正しいと思えば正しく、自分が悪いと思えば悪いのです。本来、善悪の基準をつけるのは主ですが、その基準を人間が自ら持ってしまったのです。主は「その実を食べるならば必ず死ぬ」と告げましたが、サタンは「死ぬといけないから」とみことばを変えてしまいます。サタンは「あなたはそのままで良い。その程度のことは皆が行っている。誰にも迷惑をかけないし、法律はあなたを裁かない。」などとささやきます。「神」にではなく、「人」に焦点を当て、私たちの内側に主に対する不平と不満、疑う心を引き起こすのです。

2.2 主のさばき (Iテサロニケ 4:4-6、ユダ7節)

主はあわれみ深く、情け深いお方です。しかし、主を知らず、情欲におぼれ、汚れを行うことについて正しくさばかれるお方です。汚れた情欲を燃やし、肉に従って歩み、権威を侮る者たちに対して、主のさばきは怠りなく行われており、彼らが滅ぼされないままにしていることはありません。ノアの時代には、主の意図しない婚姻関係によって地上に人の悪が増大したので、主は人を造ったことを悔やまれ、心を痛められました。その結果、主は、地上のすべての生き物を、人をはじめ、動物、はうもの、空の鳥に至るまで消し去られました。また、ソドムとゴモラの町は暴力と性的な乱れに満ちた町でした。私たちの中に起こる戦いや争いの原因は、私たちのからだの中で戦う欲望が原因であると聖書は語っています。ソドムとゴモラは好色にふけり、不自然な肉欲を追い求めたので、永遠の火の刑罰を受けて、みせしめにされることとなりました。主はソドムとゴモラの上に、硫黄の火を天から降らせ、これらの町々と低地全体と、その町々の住民と、その地の植物をみな滅ぼされました。

3. 「肉体と性」を管理する

私たちの「肉体と性」はイエス・キリストによって主のものとされました。私たちのからだをもって神の栄光を現していきましょう(Iコリント 6:19-20)。

クリスチャン生活と古い生き方からの解放

3.1 正直に悔い改める (黙示録 3:19-20)

主は「わたしは、愛する者をしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって、悔い改めなさい。」と私たちを招いてくださいます。罪を犯したときには、自分の罪を認めて熱心になって悔い改めましょう。

【Case. 4 ダビデ 姦淫の罪と正直な悔い改め (詩篇 103:3-12)】

ダビデの生涯における最大の罪は、彼の絶頂期に起きました。ダビデは常にイスラエルの民の先頭に立って戦ってきましたが、勝利を目前にしたアモン人との戦いでは、ダビデはエルサレムにとどまっていた。人は戦いの場から退き、責任ある持ち場を離れて鎧を脱いだときに、弱くなり、誘惑されやすくなります。ダビデは王宮の屋上から、彼の部下ウリヤの妻バテ・シェバがからだを洗っているのを見て、彼女を呼び出し、彼女と性的関係を持ちました。そして彼女がみごもったことを知ると、自分が犯した姦淫の罪を覆い隠そうとしました。結果として、自分の思い通りにならなかったダビデは、王の権威を使ってウリヤを激戦の真っ正面に配置し、敵に殺害させました。主は預言者ナタンを遣わし、ダビデの罪を指摘し、悔い改めに導きました。ダビデは自らの罪を認めて、主の前に悔い改めました。ダビデが人のいのちを殺めたという事実は変わりませんが、ダビデが正直に、心からへりくだって、主の前に罪を告白したとき、驚くべきことに、主はダビデに恵みとあわれみを示し、その罪を赦されました。ダビデは主の赦しの偉大さを告白しています。

3.2 不品行・誘惑を避ける (使徒 15:28-29、I コリント 6:13-20、箴言 3:7-8)

初代教会におけるエルサレム会議で、御霊の導きにより不品行を避けることが決定されました。コリント教会の人々は、救われた者が味わう自由をはき違え、遊女と関わっても問題ないと考え、大手を振って姦淫の罪を犯していました。しかし、パウロは彼らの考え方の間違いをはっきりと指摘しています。私たちは、キリストの贖いの恵みにより、キリストのからだの一部とされました。不品行はキリストのからだを汚す行為となるため、これを避けるようにパウロは戒めています。また、たましいに戦いをいどむ肉の欲を遠ざけるように勧めています。主を恐れて、悪から離れましょう。それは、私たちのからだを健康にし、私たちの骨に元気をつけます。

性的誘惑に打ち勝つ大切な方法は、誘惑に近づかないことです。それは悪魔に機会を与えないようにすることです。イエス・キリストは、「情欲をいだいて女性を見る者はすでに心の中で姦淫を犯している」と教えられました。このことについて、誰もあなたを法律で裁くことはできないでしょう。しかし、確実に聖さは失われていきます。目からの誘惑に弱ければ目に入れないようにし、誘惑となる状況には身を置かないようにするなど、私たちの側での心がけも必要です。私たちは悪魔に対しては立ち向かいますが、誘惑に対しては正面から戦うことをせずに、近づかず、遠ざけるようにしましょう。

第5章 「お金と経済」を管理する

1. 神の恵みの良い管理者となる

1.1 主からゆだねられた賜物を忠実に管理する

(I コリント 4:1-2、I テサロニケ 4:11-12、詩篇 67:6-7)

主は私たちにお金・経済・時間の管理をゆだねてくださっています。私たちの忠実さは、誰も見ていないような場所で行われる小さなことに表れます。主は私たちがこの世の中での歩みを疎かにするようには教えておらず、自分の仕事に身を入れ、自分の手で働くことを教えています。私たちは神の恵みの良い管理者として、主からの賜物を忠実に扱うことが求められています。そして、主は私たちの世の中における手のわざにも力を与えてくださいます。ですから、主の力によって私たちは堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励むことができます。そして、その労苦は主にあつてむだになることはありません。忠実な人は多くの祝福を得るのです。神の恵みを正しく取り扱う者はさらに与えられ、そうでない者は持っている物までも取り上げられてしまいます。

神の恵みの良い管理者として、エジプトの牢獄から宰相まで引き上げられたヨセフがいます。ヨセフにとって大切なポイントは、主がヨセフとともにおられ、彼が何をしても、主がそれを成功させてくださったことです。主の祝福そのものが人を富ませ、人の苦労は何もそれに加えないのです。私たちが祝福されることの目的は、地の果て果ても主の栄光を見て、ことごとく主を恐れるためであり、他者を祝福するためです。それらすべては、イエス・キリストを通して主の御名があがめられるためです。

1.2 主を第一とする (マタイ 6:32-34)

私たちが何を第一としているかは日々の行動に表れます。私たちが地上で生活するために「衣」「食」「住」が整えられること、備えられることは必要なことです。しかし、主は、いのちは食べ物よりも大切なものであり、からだは着物より大切なものであることを教え、私たちに心配することをやめるよう繰り返し語っています。私たちに心配や思い煩いがあると、私たちの関心は自分の必要に向いてしまいます。それは、主を知らない異邦人が切に求めているものであると主は指摘しています。主は主の民である私たちに「神の国とその義とをまず第一に求めなさい」と命じておられます。私たちが神の国と神の国とのかかわりを何にも増して熱心に求め続けるなら、主は必要なすべてのものを備え、面倒を見ると約束してくださったのです。

主を第一とする上で大切なことは安息日です。安息日は主が私たちに与えてくださった特別な賜物です。週に一度、愛する主との憩いの時間を聖別して過ごすことで、私たちのたましいとからだに休息が与えられ、神の国の中で新しい一週間を生きていくための力が与えられます。明日のことは明日を造られる主にゆだね、神の恵みの良い管理者として、今日という一日を歩んでいきましょう。

クリスチャン生活と古い生き方からの解放

1.3 主に信頼し続ける (詩篇 34:10、37:11、55:22)

神の恵みの良い管理者は「主に尋ね求める者」です。私たちには、主の前に出て主に尋ね求めることができる特権が与えられています。この天地すべてを創造された全能の主は、良いものに何一つ欠けることはありません。信仰の成熟とは、自分ができる領域が増えていくことではなく、主にゆだねる領域が増えていくことです。大切なことは、どれほど多く持っているかではなく、わずかなものであってもどのように管理し、何のために用いていくかです。主の前に自分を貧しくする者は地を受け継ぎ、豊かな繁栄を喜びとすることができます。主は私たちのことを心配してくださるお方であり、主に重荷をゆだねるときに、主は私たちにかかわるすべてのことを成し遂げてくださいます。

2. 「金銭を愛する心」と「満ち足りる心」

2.1 目の欲、肉の欲、暮らし向きの自慢から解放される

(Iヨハネ 2:15-17、箴言 28:25、伝道者 5:10-12)

私たちがこの世と調子を合わせ、目の欲、肉の欲、暮らし向きの自慢に関心を向けて経済や富を用いるとき、私たちは思い煩いに陥ることとなり、心配が絶えなくなります。主のみこころよりも自分の気持ちに支配されるようになり、私たちの欲深さはねたみや争いにつながっていきます。聖書は、「金銭を愛することが、あらゆる悪の根である」と警告しています。金銭を愛し、重んじ、執着するときに、私たちは満たされることがなく、安心して眠ることができなくなることさえあるのです。それは私たちの宝のあるところに、私たちの心があるからです。人は神にも仕え、また富にも仕えることはできません。世と世にあるものを愛しているならば、その人のうちに主を愛する愛はないのです。

2.2 私たちはイエス・キリストだけで満ち足りています

(マタイ 4:1-11、ピリピ 4:11-13、Iテモテ 6:6-10)

けれども、私たちはこの世の中で生活をしており、世の富や自分の欲の誘惑と常に向き合わなければなりません。私たちはこのことにどのように対処していけばよいのでしょうか。この問題においても、イエス・キリストは人の経験するすべての試みと誘惑を受けてくださり、その試みに対してみことばによって勝利してくださいました。私たちの心を満たしてくださるのはイエス・キリストだけです。究極的には、イエス・キリストがいてくだされば、私たちには十分なのです。イエス・キリストのように、私たちも誘惑に対してみことばを宣言していきましょう。

パウロが告白したように、私たちは豊かさの中にあっても、貧しさの中にあっても、今与えられているすべてを主に感謝し、満ち足りる心を伴う敬虔を持ちたいと願う者です。物質主義の世の中において、私たちを祝福してくださる主ご自身よりも、私たちの必要や願いを求めてしまわないように気をつける必要があります。

クリスチャン生活と古い生き方からの解放

私たちが今持っているもので満足することができるように、主に心を整えていただきましょう。自分の収入の範囲で生活設計をしていくことは大切なことです。借入をせざるを得ない状況や住宅ローンなどは除いて、目の欲、肉の欲、暮らし向きの自慢のために無計画にクレジットカードを使用することや、不必要な借入をすることは避けるべきでしょう。聖書には「だれに対しても、何の借りもあってはいけません。(ローマ 13:8)」とあり、お互いに気安くお金を貸借したり、他人の負債や金銭の保証人になったりすることは避けましょう。主から与えられている経済に感謝し、私たちの収入と支出についてきちんと管理していきましょう。私たちの主への態度を通して、私の人生の主人が主であるのか、私であるのかということに、私たちは向き合うことになるのです。

3. 地を祝福し、天に宝を積む

3.1 収穫の初物としての十分の一献金

(申命記 14:22-23、箴言 3:9-10、マラキ 3:10)

献金は礼拝そのものです。私たちの宝のあるところに、私たちの心があることを実践する機会です。まず、私たちに経済と家庭、健康やすべてを与えてくださった主に、十分の一献金をささげましょう。それは主を恐れることを学ぶためでもあります。主が私たちに富を築き上げる力を与えてくださるのは、主ご自身の契約の真実さのゆえであることを忘れてはいけません。十分の一献金の祝福について、聖書は私たちの倉が豊かに満たされると約束しています。初物は私たちの最良の物を主にささげることを意味します。それは、私たちが主を第一とする信仰を実践することです。今ある物の中から最良の物をささげるには信仰が必要です。けれども、私たちが主に信頼し、初物と十分の一を喜んで聖別してささげるときに、主は天の窓を開いて残りの物をあふれるばかりに祝福してくださいます。主は寛大なお方なのです。

3.2 神の宮を建て上げる献金

I 歴代誌 29 章に、神の宮を建て上げるために自身の財産を主にささげたダビデの姿が記されています。ダビデは「全力を尽くして」「喜ぶあまり」「自ら進んで」ささげました。また、ダビデの呼びかけに応じて、民も「全き心を持ち」「自ら進んで」主にささげました。ダビデが全集団の前で主をほめたたえた賛美から、主に対する彼の霊性を見ることができます。それは、主がすべてを治めておられる方であり、すべて主から出たものであるという告白です。そして、偉大さ、力と栄え、栄光、尊厳は主のものであり、ダビデや民がささげたものも、すべて御前から出たものを主にささげたにすぎないという告白です。主の主権にどこまでも明け渡していたダビデのように、私たちが喜んで、自ら進んで献金をささげていきましょう。

3.3 聖徒を支え、宣教を支える献金

【Case. 5 マケドニア教会】

また、献金は聖徒を支える奉仕の恵みです。Ⅱコリント 8 章と 9 章には、エルサレム教会に対するマケドニア教会の献金支援について記されています。この働きは単なる支援以上のもので、異邦人教会とユダヤ人教会が神の家族としての「新しいひとりの人」であることを証しする重要な働きでした。このマケドニア教会の献金から、私たちが長子イスラエルのために献金をささげることの恵みを見ることができます。

次に、献金をささげる姿勢についても見ていきましょう。彼らは「自ら進んで」「力にに応じて」「惜しみなく」「熱心に」ささげました。彼らの主体的で力以上に気前よく喜んでささげた献金が、聖徒たちを支える働きをしました。注目すべきことは、このときの彼らの状況は苦しみと、試練があり、極度の貧しさの中にあつたということです。主の恵みへの感謝として、彼らは主のみこころに従って、この献金とともに自分自身を主にささげたのです。

さらに、献金は宣教そのものでもあります。なぜなら、この奉仕のわざは、聖徒たちの必要を十分に満たすばかりでなく、主への多くの感謝を通して、満ちあふれるようになるからです。神の国の拡大と福音宣教のためにささげていくときに、私たちがキリストの福音の告白に対して従順であり、すべての人々に惜しみなく与えていることを人々は知って、主をあがめると聖書は言っています。私たちがささげる世界宣教や諸教会への献金を通して、主が神の国の福音を拡大してくださることを感謝します。

3.4 豊かに蒔く者は豊かに刈り取る（Ⅱコリント 9:6-8、使徒 20:34-35、マタイ 7:12）

主は喜んでささげる人を喜んでくださいます。主は私たちに蒔く種を備え、義の実を増し加えてくださいます。主は私たちに満ち足らせ、さらに惜しみなく与える者とし、主への感謝が満ちあふれるようにしてくださいます。イエス・キリストが「受けるよりも与えるほうが幸いである」と語られたように、私たちの両手は、自分自身の必要のためだけでなく、ともにいる人たちの必要にも届いていくことができます。主は、自分の敵を愛し、憎む者に善を行い、のろいを祝福で返すように教えられました。また、「一ミリオン行けと強いるような者とは、いっしょに二ミリオン行きなさい」と教えています。私たちが隠れたところで自分の宝を天にたくわえるときに、隠れたところで見ておられる主が報いてくださいます。何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにするようにならう。また、キリストの姿にならう、兄弟姉妹が困っているのを見たならば、ことばや口先だけで愛することをせず、行いと真実をもって愛するように聖書は勧めています。善を行うことと、持ち物を人に分けることを主は喜んでくださいます。ここで気をつけたいのは、信徒同志のお金の貸し借りです。そのような相談を受けた場合や、必要がある場合には、牧師や教職者に相談しましょう。

終わりに

試練によって、私たちの土台が何によって建てられていたかが分かります。どんな試練に会うことよりも、どんな大きさやデザインの建物を建てることよりも、何の土台の上に家を建てているかが大切です。土台作りには時間がかかります。

まずは**主**の語られるみことばに心を向けましょう。みことばを聞いて受け入れる良い地には、蒔かれた種が実を結び、三十倍、六十倍、百倍の実を結びます(マルコ 4:8-9)。

みことばを聞き、実行するという生き方が建て上げられていくことには時間がかかります。地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を据え、それから建てられた家は、雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけられても倒れませんでした(マタイ 7:24-27、ルカ 6:46-49)。簡単に建てられる場所や効率の良い場所に家を建てることはできるでしょう。しかし、見せかけの信仰、聞いても変わらない人は、洪水や強風に耐えることはできません。

イエス・キリストの弟子として、兄弟姉妹とともに、日々イエス・キリストの血潮を求め、みことばと御霊によって祝福された歩みをしていきましょう。

「**主**が家を建てるのでなければ、建てる者の働きはむなしい。**主**が町を守るのでなければ、守る者の見張りはむなしい。(詩篇 127:1-2)」

主はその愛する者のためには、私たちが眠っている間に備えてくださる方です。



表紙のデザインは、エルサレム旧市街にあるクライストチャーチのステンドグラスを参考にしています。イスラエルを通して全世界を祝福するという神様が与えた契約を、オリーブの木の根と幹、栽培種の枝であるユダヤ人(メノラー)で表し、イエス・キリストによってそこに接ぎ木された野生種の異邦人クリスチャン(十字架)を表しています。

イエス・キリストが再びこの地に戻って来られるとき、イスラエルと異邦人の救いは完成し、すべてのものはキリストにあって一つとされます。

(聖書参照箇所：創世 12:1-3、ロマ 11:11-24、エペ 2:11-22 他)